

派 遣 報 告 書（報告者；佐田明美）

大会名	令和6年度第45回全九州中学生バスケットボール春季選手権大会
開催地	サンアリーナせんだい（鹿児島県薩摩川内市運動公園町 3030 番地）
日 時	令和7年2月21日（金）～2月23日（日）
担当ゲーム1	（女子1回戦）佐賀バルナーズ U15（佐賀1位） vs 折尾中学校（福岡2位）
クルー	CC：佐田明美 U1：四本栄子（長崎B級） U2：大村谷菜々（宮崎B級）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
・ウェブ研修での内容を意識して、3人でスムーズなゲーム運営を目指す。 ・ベーシックなメカニクスを実践することで、オビアスな現象を判定につなげていく。 ・ベンチとのコミュニケーションが必要な場面が出てくるが、両チームとも公平に。 ・全中に向けての講習会、T0研修でもあるので、より丁寧なレポートを。	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference（IR：久地洋樹氏（沖縄県））	
・ゲームの入りにクルーで共有して必要な笛を入れることができていた。PGCの確認が見て取れる。 ・2Qはナチュラルインターバルの時間が長かったが、白のキーププレイヤーへのファウルは仕方ない。 ・セカンドプライマリーからのケイデンスコールが2つ続いたので、プライマリーが判定できなかった理由を改善していくとよい。 ・それぞれがこれまで積み上げてきた経験が生かされたゲームであった。	

担当ゲーム2	（女子2回戦） HEART（沖縄1位） vs れいめい中学校（鹿児島県1位）
クルー	CC：佐田明美 U1：末信優華（福岡A級） U2：古瀬和也（佐賀B級）
（担当ゲーム2）Pre-Game Conference	
・お互い1対1が強いチーム。キーププレイヤーを把握する。 ・リードローテーションのタイミング、「来てくれたら助かる」タイミングで。 ・エッジのプレイは基本的にリード。エンドラインの00Bは、センターレフリーの協力が必要な場面。	
（担当ゲーム2）Post-Game Conference（山中萌衣（鹿児島県2級 IR））	
・互いがプライマリーを尊重して判定していたと思う。 ・セカンドプライマリーの判定で笛を鳴らすタイミングをもう少し遅らせるとよい。 ・メカ崩れの場面。3人でアイコンタクトを取れば、修正できた。スムーズな進行を意識するとが急ぎすぎる傾向に。より丁寧に確認していく。 ・誰がプレイを把握するのか。ビジーでないレフリーがアングルをもって、視野を飛ばすこともある。	

担当ゲーム3	（女子決勝） 三股中学校（宮崎1位） vs れいめい中学校（鹿児島県1位）
クルー	CC：佐田明美 U1：豆塚宣男（熊本A級） U2：松田茂治（沖縄A級）
（担当ゲーム3）Pre-Game Conference	
・全中仕様でコートデザインが変わっているので、T0とも確認しながら進めていく。 ・両チームともフルコートでのプレッシャーがある。バックコートセンターの協力を。 ・3人で見えないところをなくす努力。ポジションアジャストの実践。 ・リバウンド後の寄り。シリンダーに注意。 ・チームだけでなく、観客も含め、全体に分かりやすいプレゼンを行う。	
（担当ゲーム3）Post-Game Conference（IR：東條輝正（JBA 講師1級 IR））	
・イリーガルな手の使い方やトラベリングについて、丁寧に判定していた。 ・2Qの最初にオフボールのファウルを吹いたが、1Qから吹いていれば、チーム、観客ともに納得できるものになっていた。 ・DFのイリーガルな手の使い方の判定はできていたが、同じようにOFのイリーガルな使い方も判定できると良かった。 ・同じチームの2人ともイリーガルなら、よりチームが納得してくれる方のプレイヤーをレポートする。 ・チームコントロールファウルの場面、笛、ディレクションと同時に「オフェンスファウル」の声があればより分かりやすかった。レポートの際、「ボールコントロールしているチームのファウルなので、フリースローはありません」の手の使い方は良かった。レアケースでのプレゼン、手の使い方は難しい。	

今大会に参加しての感想など

熊本県で開催された全日本社会人大会、長崎県の春季九州高校に続き、九州中学にも参加させていただきました。今夏に開催される鹿児島全中に向けてのプレ大会と位置付けており、JBA から講師を招聘して審判研修、T0 研修を実施していました。審判研修に関しては、鹿児島県原田審判長の配慮で、派遣審判も事前の Web 研修から参加させていただき、より緊張感をもって大会に臨むことができました。

初日終了後の 3 コートから 2 コートへ、2 日目の 2 コートからメインコートへのコートデザインの変更については、鹿児島県の大会役員全員が協力して、全中モードで動いているのを感じました。

大分県でも次年度、九州中学が開催されるということで、U15 役員も視察にきており、審判部としても準備を進めていかなくてはならないと感じました。

個人的にはブロック大会の決勝としては初めて CC を経験させていただき、これまでの経験が生かされたともある一方で、まだまだ経験値や考え方が足りない場面も多々ありました。JBA 講師のお二人に質問させていただいた内容を身に着けて行くとともに、県内へも還元して行きたいと思います。

同期間で九州ミニが行われている中で、派遣していただいた県審判委員会、県協会の皆様、丁寧にご指導いただいた JBA 講師の加藤暁生氏、東條輝正氏、原田審判長をはじめとする鹿児島県審判委員会の皆様、大会運営をくださった鹿児島県バスケットボール協会の皆様、協力してくれた中学校、すべての大会関係者にお礼申し上げます。